

おわりに

本看護部長会議では、「国立大学附属病院の今後のあるべき姿を求めて～その課題と展望～」(以下、「課題と展望」)の方針を踏まえ、看護部長会議全体でめざす姿を明確にし、その姿に向かって進むことが、国立大学病院の医療や看護ひいては日本の医療や看護の発展に寄与することと考え、看護部の立場から「国立大学附属病院の今後のあるべき姿を求めて～その課題と展望～(看護部編)」(以下、「あるべき姿」)を検討してきた。

「課題と展望」では、「教育」「診療」「研究」にとどまらず、「国際化」や「地域貢献・社会貢献」「運営」についても提言が述べられ、すでにその実現化計画が始まっている。本会議も、国立大学病院の目標実現のために協力し、力を尽くして取り組む所存である。

一方、本会議の「あるべき姿」の検討においては、これまで「看護実践」「教育」「研究」が必ずしも連携・連動して発展してこなかったという点が、どの分野にも共通する課題として考えられた。患者に提供する看護実践をよりよくするために、また、進歩する医療を受ける患者に適時適切な看護を提供し続けるためには、看護実践の評価・改善、開発とともに、それらをなしうる看護職の育成が必要である。

国立大学病院看護部の強みは、同じ大学内に看護や保健医療学系の学部・学科、大学院があり、教育や研究を専門とする看護職とともに課題に取り組める環境があることである。この強みを活かすことが、国立大学病院の看護部に求められるミッションを達成するためのアクションに繋がるのではないかと考える。

この「あるべき姿」に提示している提言をどのように実現化していくかは、今後さらに検討が必要である。本提言は将来像を考えて作成したものではあるが、今後の医療情勢や社会情勢によって、行動計画など柔軟に見直し対応していかなければならないものである。また、国立大学病院の看護部の立場から検討したものであり、別のさまざまな立場の方々の視点から、ご指摘頂く課題や提言も多々あると思われる。ご意見やご指摘を頂き、関係の方々とのさらなる連携によって建設的な実現計画を立案し、看護の対象となる方々、ともに看護に携わる方々、そして社会への還元・貢献となるよう、実行に移していきたい。

最後に、この「あるべき姿」を作成するにあたって、ご協力くださった関係の皆様から心から感謝申し上げます、おわりの挨拶としたい。

平成 26 年 12 月

国立大学病院看護部長会議